

平成16年度 理科・環境教育助成報告書

テーマ

身近な海の生き物ともっと親しくなろう

主催者

野口なつき

課題の主旨

この事業を通じて、海などの自然環境で遊ばなくなった人々に海の楽しさや素晴らしさを知ってもらいたいと考えました。海の生き物とふれあい、学ぶことにより、海や生き物を守ろうという気持ちが湧いてきます。さらに、多くの人がそのような考えから、自発的に環境問題に取り組んでくれることを目的としました。

活動状況

活動内容

「身近な海の生き物ともっと親しくなろう」

開催日：2005年9月4日

2005年9月19日

参加者：東海大学附属小学校生徒及び保護者 42人

NPO法人かっぱらば編集室の生徒及び保護者

内容：真崎海岸にて自然観察のあと、東海大学海洋科学博物館にて生態観察

* スケジュール詳細は別紙（スタッフ連絡事項）参照

スケジュール

平成16年11月～平成17年1月

- ・ 各種関係者打ち合わせ
- ・ 現地調査

平成17年2月～3月

- ・ 文献調査
- ・ 海岸フィールドブック概要検討

平成17年4月～6月

- ・ 東海大学附属小学校およびNPO法人かっぱらば編集室とスケジュール調整
- ・ 海岸フィールドブック詳細検討

平成17年7月～8月

- ・ 海岸フィールドブック作成
- ・ 現地再調査

- ・ 各関係者と内容など再確認

平成17年9月4日 開催 東海大学附属小学校生徒

平成17年9月19日 開催 NPO 法人かっぱらば編集室の生徒

平成17年10月 報告書作成



自然観察（真崎海岸）



ウミホテル実験会



プランクトン観察



採取した生物の観察

結果

本事業は東海大学海洋科学博物館（以下博物館）の協力により、円滑に行うことができました。地元の子供達に身近な海の生き物を知ってもらうことが目的でしたので、博物館における駿河湾の展示やわかりやすい実験会はその目的達成に効果的でした。

参加者アンケートによりますと、ほとんどの人には好評でした。その他、身近な海にたくさんの生き物がいることやその生き物についての理解ができたという成果がでました。これは海に行ってから、実際の生き物を触り、その生態を観察することでその成果を得る

ことができたと考えます。

しかし、プランクトンについては多くの参加者が理解できなかったようです。これは参加者が小学校1年から6年までというばらつきによる理解の差と顕微鏡をうまく扱えないということが原因と考えられます。

今後の課題

アンケートの結果から、プランクトンについては参加者の年齢を絞ることが必要と考えます。しかし、小学校での授業として取り扱ってくれるところは少なく、一定の参加者を集めることが非常に難しいです。今回、何件か小学校に連絡をしたのですが、東海大学付属小学校だけ、返事をいただきました。しかし、授業としてはできないので学校推薦の行事として扱われることになりました。これらのことから広報活動の工夫を検討します。

また、内容について理解のばらつきの原因は二つ考えられます。一つは参加者の年齢が一定ではないこと、もう一つは内容が多すぎたことです。今後の課題として、アンケートをもとに的を絞って新たな内容を検討していきます。

投稿記事

- ・ 静岡新聞 2005年9月5日
- ・ マリンパル清水（ラジオ出演）2005年9月19日
- ・ 静岡新聞 2005年9月20日
- ・ 東海大学新聞 2005年9月20日